

平成30年度 自己評価

I 「保育の計画性」についての検証及び改善策

保育の計画は学年リーダーを中心に子どもの実態に合わせて計画され、状況に合わせて臨機応変に見直しをしながら保育に活用出来ていた。園の教育方針や教育理念を元に計画を立てることが出来ているが平成30年に改訂された認定こども園教育・保育要領に関して職員間で話し合いをする機会が少なく、理解度に関しては個人差が見られる為、今後職員間で情報を共有し新しい教育要領への理解度を高めていきたい。

II 「保育への在り方、幼児への対応」についての検証及び改善策

子どもの健康と安全については引き続き各職員の意識が高く、朝の視診や保育中の体調の変化に対する対応も迅速に行われている。子どもに対するうがい・手洗い指導と職員でできる定期的な消毒等は徹底して行うことが出来ている。引き続き欠席情報や伝染性の病気の流行状況を父兄へも発信し予防と感染拡大への注意喚起がきちんと行われている。今年度はより他のクラスや異年齢の子ども達が関わる機会を増やせるよう保育を計画し、実行に移している。

III 「保育者としての資質や能力・良識・適正」についての検証及び改善策

職員1人1人が子どもの性格や個性を把握するように努め、お互いに情報共有しあい、教職員全員で1つのチームだという意識を持つことが出来ている。子ども、父兄に対しても職員間でも明るく親しみを込めた挨拶を交わし対応には公平さを欠かさないように意識している。園内外の清掃や整理整頓にも心がけ、職員自らの体調管理や身だしなみにもお互い注意しあえる環境が整っている。

IV 「保護者への対応」についての検証及び改善策

怪我・トラブル・クレーム処理最優先に加え、ヒヤリハットの情報も職員間で共有し、大きな怪我や事故に繋がらないように各職員が注意を払うことが出来ている。父兄に対しては引き続き日頃から子どもの様子を手紙や連絡帳で伝えたり、定期的な学年だより等で様子をマメにお伝えすることが出来ている。定期的に教育相談の機会を設け父兄からの相談に応じたり、園で気になる様子を伝えることが出来ている。また、相談内容等を職員間で情報共有し、保育に活かすことができている為、各職員の評価も高い。

V 「地域の自然や社会との関わり」についての検証結果及び改善策

園周辺や園外保育において引き続き職員と子ども達が地域の人々と親しみこ込めて挨拶を交わすことが出来ている。年長児を中心に近隣小学校と交流する機会を設けたり、卒園児を園へ招待する企画も継続的に行われている。園庭開放や定期的な入園説明会等を行い、未就園児保護者の悩み相談を受けたり、長期休みには卒園児の預かり保育も実施する等広く地域社会に関わり貢献できる体制が整っている。

VI 「研修と研究」についての検証結果及び改善策

キャリアアップ研修や経験年数に応じた専門知識を高める研修に各自が参加し、その情報を園に持ち帰り情報伝達することや保育に活かすことが出来ていた。自ら専門的な知識を身に付けようとする機会はまだまだ少なく障害や危機管理についての研修・研究は各自の評価が低い為、今後の研修参加や各個人での知識を高める努力が求められる。

